

わくわく 本だな

2月

こんげつのおすすめ

★ = 1・2年
★★ = 3・4年
★★★ = 5・6年

『わたしたちのてんごくバス』 (えほん)
ボブ・グレアム/作 こだま ともこ/訳
さ・え・ら書房



あるひ、まちにうごかなくなつたバスがすてられていました。みんなであそべるように、なかをかいぞうしようよ。

『ジャーニー 女の子とまほうのマーカ―』 (えほん) アーロン・ベッカー/作 講談社



かいたものは、なんでもほんもの本物になってしまう赤いマーカ―。壁にかいたドアをあけて、さあ冒険に出かけよう！

『こやぶ医院は、なんでも科』 ★
柏葉 幸子/作 山西 ゲンイチ/絵 佼成出版社

ぐあいがあるいとうそをつき、がっこうを休んでしまったさや。はじめてきた「こやぶ医院」で、ふしぎな子にであいます。



『サンドイッチの日』 ★★
吉田 道子/作 鈴木 びんこ/絵 文研出版

もみこのとうさんは仕事ばかり。かあさんは、怒って引っ越ししてしまった。でも、もみこはなんだかなっとくいかない。



『謎の国からのSOS』 ★★★
エミリー・ロッド/作 さくま ゆみこ/訳
杉田 比呂美/絵 あすなる書房



謎の国とぼくの国をつなぐ大時計が、狂っている。早く直さないといけなのに、大事な部品をひろった姉さんと弟がいない！

『江戸のお店屋さん』 (ちしきの本)
藤川 智子/作 ほるぷ出版



江戸時代のお店をのぞいてみよう。「湯屋」はふろ屋、「地本問屋」は本屋。どんな本が売られているのかな？



あたらしく はいった本

『犬になった王子 チベットの民話』(えほん)

君島 久子/文 後藤 仁/絵 岩波書店

むかし、チベットには麦^{むぎ}がありませんでした。ひとびとに
おいしい麦を食べさせようと、王
子はながいたびにでます。



『たまたま・たまちゃん』 ★

服部 千春/作 つじむら あゆこ/絵 WAVE出版



うどん屋^やのむすめ、たまちゃん
は、ケーキ屋の友だちがうらやま
しい。そこで、ちょっとだけいれ
かわることにしました。

『ツン子ちゃんおとぎの国へいく』 ★★

小本 祐子/作 佐竹 美保/絵 小峰書店



「あなたは悪い魔女^{まじよ}に大切なもの
をぬすまれた」と言われたツン子ち
ゃん。まよいこんだおとぎの国で、
大切なものはみつかるでしょうか。

『岳^{たけ}ちゃんはロボットじゃない』 ★★

三輪 裕子/作 福田 岩緒/絵 佼成出版社

いやなことはいやだって言えば
いいのに、岳^{たけ}ちゃんは言えません。
草平^{そうへい}はつい「そんなのロボットと
同じだ」と言ってしまいます。



『星空^{てんこ}点呼』 ★★★

嘉成 晴香/作 柴田 純与/絵 朝日学生新聞社

小学5年生の美咲^{みさき}は、身に覚え
のないことでいじめられるようにな
る。でもくじけそうになったと
き、ある言葉に勇気^{ゆうき}をもらった。



『洞窟^{どうくつ}で待っていた』 ★★★

松崎 有理/作 横山 えいじ/絵 岩崎書店



アジマとコマキは、洞窟^{たんけん}探検に
出かけた。そこに待っていたのは、
かつて人間だった男と、「コゴダ
シ」という怪物^{かいぶつ}だった。

『調べよう！世界の^{れきし}本屋さん』(ちしきの本)

秋田 喜代美/監修 稲葉 茂勝/文 ミネルヴァ書房



世界で一番はじめてに本屋さん
ができたのは、どこでしょう？
世界中の本と、本屋さんの歴史^{れきし}
をしょうかいします。

『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』

(ちしきの本) 石井 光太/文 ポプラ社

世界には、自由に学校へ行け
ない子どもがたくさんいる。ど
うして行けないのか。私たちに
は、想像^{そうぞう}できない理由もある。



『山田和樹^{かずき}とオーケストラのとびらをひらく』

(ちしきの本) 山田 和樹・松本 伸二/作 アリス館

オーケストラってなんだろ
う？知らない楽器の名まえや、
指揮者^{しきしや}のやくわりが、これ一冊^{さつ}
でわかります。



読みたい本、さがしている本は窓口^{まどぐち}で聞いてね！としょかんのホームページも見てください。

< 編集・発行 > 富山市立図書館 富山市丸の内1丁目4-50 電話 076-432-7273